Libro de Alexandre (XIII)

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem which consists of 10700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many, diverse and various episodes like that of the Troyan war which took place about 1200 years B.C. according to the historians, and those of the Old Testament. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century of A.D. So in this work by unknown auther, perhaps a cleric, mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of cuaderna vía (four-fold way), style of which has been called mester de clerecía (scholars' art) as compared with mester de juglaría (minstrels' art).

This time translation is made from the strophe 2325 to the 2496.

アレクサンダーの書 XIII

太田強正　訳

アレクサンダーの書は13世紀の最初の約30年の間に書かれたと推測される10700行からなる大叙事詩である。

これは33歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前4世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約1200年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後13世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de Châtillonの Alexandreis を底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩である。

今回は第2325連から第2496連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

2325　すべての生き物を育てる自然は
知られている生き物も知られていない生き物をも
アレクサンダーが厳しい言葉を吐き
自然の秘密を征服しようとしたと思いました

2326　富める女主人は自分が征服され
彼が与えられた法を彼女から取り去ろうとしたと思いました
その力が決して奪われることはありませんでした
アレクサンダーが彼女を辱めたのでなければ

2327　王は秘密の事々を学ぼうとしました
生きた人間が知ることができなかった秘密を
アレクサンダーは力でそれらを知ろうとしたのです
ルシフェルもこれ以上の不遜を思いついたことはありませんでした

2328　神は数々の王国を彼の支配下に置きました
どんな力も彼から自身を守ることはできませんでした
彼は海を知り、地獄を見たかったのです
それは人間が決して達成できなかったことです

2329　アレクサンダーは自然を作った創造主を悩ませました
創造主は彼に怒りと大きな悲しみを抱いて
言いました：《節度を知らないこの気違いめ
私はこやつのすべての喜びを悲しみに変えてやる

2330　王は魚の傲慢さを判断できましたが
自分が内に持っている傲慢さには気付けませんでした
こんなに多くの判断を下せる人間は
自分の下した判断に従うべきです》

2331　自然の女神が創造主が悲しんでいるのを見ると
悲しんではいましたが、非常に喜びました
そしていつも住んでいる雲から降りて来ました
苦悩を示すために、そしてどんな悲嘆を味わっているかを示すために

2332　彼女は人間からは仕返しされないことはよく分かっていました
なぜならモーロ人とユダヤ人は彼女の剣を恐れていたからです
彼女はアレクサンダーに邪悪な罠を仕掛け
どのようにして彼に毒入りの食事を与えるようにしようかを考えました

2333　彼女はしなれた仕事を後回しにしました
魂に戦いを挑む他の生き物たちを探しに
彼女は仕事を実施するために地獄に下りました
アレクサンダー王に不幸な道を歩ませるために

2334　飢えた場所である地獄の王宮について
—私の主題が命じるので—私は話したいと思います
悪い地面、悪い住民、悪い天井、悪い炉
まず初めに恐れと怯えについて

2335　すべての生き物を作った創造主は
色々な才と色々な形を持ったすべての生き物を
色々な自然を持った場所を作りました
そこでは魂が苦難や喜びを味わいます

2336　神は彼に仕えることを愛する善人たちに
彼らは自分の財産を貧者に分けることを躊躇わない人々ですが
死ぬことのない聖なる天国を作りました
そこでは少しも苦難を被ることはないでしょう

2337　そこで彼らは求めることができないような栄光の中にいるでしょう
それはどんな人間も話したり考えたりできないものでしょう
そこでは彼らは神を讃えるためにすべての力を注ぐでしょう
昔も今も未来も存在する神を

2338　彼らは決して闇も寒さも暑さも感じることなく
非常に優しい面差しの神の顔を見るでしょう
彼らはそれに飽きることはないでしょう、その優しさはそれほどなのです
そこを継ぐ者は大変な幸せ者でしょう

2339　悪い生活を送るその他の悪者たちには
彼らは正しい道を捨てたのですが
彼らにはひどい出来の町である地獄が作られました
そこは法もなく、出口もありません

2340　地獄は深いところにあり、そこには決して光は入りません
何らかの光を感じるなどということはそこにはありません
壁は硫黄でできていて、瀝青でしっかり固められているので
どんな力もそれを打ち破ることはできないでしょう

2341　多くの悪い蛇が河岸でひゅうひゅう言っていて
それらは昼も夜も歯を研いでいます
魂を待ち伏せしており、他の事は考えていません
このために（我々の）最初の両親は危険にさらされました

2342　それらは罪深い魂が来るのを見ると
唇で捕らえ、鼻をつかみ
否応無く首筋を曲げさせます
そこに行かない魂は幸せだと思うように

2343　蛇は決して満腹になることはありません、いつも飢えて死にそうです
皆毒草にさいなまれています
金属の鎖もそれほどまでに締め付けはしないでしょう
神がすべてのキリスト教徒をそのようなひどい災いから解放されんことを[241)]

2344　そのすべての生息地域には決して花は咲きません
硬い棘や尖ったあざみを除いては
そこは煙とひどい臭いを出す凝灰岩と
もっとずっとひどい切り立った岩で覆われた土地だけです

2345　地獄の街区の話をやめて、町外れの話をしましょう
後になってでも私たちは城塞の中へ入っていくでしょう
市場の外には汚い村がありました
七つの大罪[242)]が門を守っています

2346　貪欲は境目の所に住んでいました
これは罪の主な産婆です
仲間の強欲が持って来るものはすべて
土鍋の中に隠しています

2347　強欲が持って来ることができるものはすべて
貪欲が土の下に貯め置きました
人が彼女に何かくれと言うと、悪態をついて死のうとしました
彼女の仲間はこの世にたくさんいます

2348　これらの二人の姉妹には召使の少女がいます
野心がその名で、名誉のために死にます
それは邪悪な罠を仕掛け、もっとひどい奸計も仕掛けます
誰も友達にも主人にも喜んでなりません

2349　これらの飢えた者たちは不実な仲間を持っています

享楽、盗み、略奪と重大な重大な欺瞞です
これらは道を支配し、郊外に住んで
時々粗ラシャを着て歩きます

2350　これらは親戚に悪い隣人がいます
過去も将来も卑しい嫉妬です
それはどんな薬でも治らない悪徳で
すぐに誰の髪の毛でも摑みます

2351　それは財産があったり、喜んでいる隣人を見ると
全くの悪意で自殺しようとします
しかし悲しみに沈む人を見ると
それを喜びとします、他のことは決して望まないのですから

2352　それはすべての正しいことを悪く言います
面と向かってはよく言い、影で別のことを言います
他人の囲い場の太った豚を気に病んで
もし人がそれを殺そうとしても、（保存用の）塩は貸さないでしょう

2353　嫉妬は強欲に対して、首を傾げています
怒りでねじれた意思をもっています
強欲のできることで、それは腹を立てています
火がそれを焼いても、嫉妬は満足でしょう

2354　悪い根から悪い芽が出るので

この悪徳から悪い子どもが生まれます
ののしり、悲しみとその他の無分別です
嫉妬は毎日鋭い痛みで目覚めます

2355 嫉妬は良い行いを見ると、それを隠したがります
隠せない場合は、それをつぶそうとします
それは多くの人に悪い人生を送らせます
それで悪魔がサウルの中に入ることになりました[243)]

2356 このことで私はあなた達に一つの例を示したいと思います
嫉妬が人をだますのをいかに知っているのか
どのように自分自身が大きな災いを被るのを望むのか
隣人を害することができるなら

2357 うわさでは二人の質(たち)の異なる仲間が
一人は欲ばりで、もう一人はうらやましがりやの仲間が
新緑の山を一緒に歩いていると
品格のある外見の聖者に会いました

2358 聖者は去る前に彼らに大きな約束をしました
一人には欲しい物を言うように
その者には望む物はすべて与えようと
何も言わないもう一人には倍の物を与えようと

2359 欲ばりの方は黙って何も言おうとしませんでした
二倍の物をもらえるように

もう一人がこの欺瞞に気付くと
嫉妬で内臓が真ん中で裂けそうでした

2360　もう一人の方は心の中で考え、すごい注文を出しました
それはこの世で見たことも聞いたこともないものでした
《ご主人様―と彼は言いました―、私の大事な方の目を取ってください
そして相棒には私があなたに頼む倍の贈り物をやってください》

2361　その聖者はとても驚き
嫉妬深い男には非常な不満を抱きました
聖者は嫉妬がそんな大罪なので
どんな罪によっても人はそんなにひどく害されることはないと知りました

2362　聖職売買をしている聖職者や騎士は
それ故私の靴に賭けて同罪でしょう
彼らは皆毎日溶けた鉛を飲むことになるでしょう
―私は虫が歯茎で育つとは思いません[244)]―

2363　怒りが三番目の住処を占めています
怒り狂った心で、争い事を幾つも抱え、
杭をかじりながら、曇った視界で
誰も自分に何も言わないことを望んでいませんでした

2364　それは非常な盲目なので人が何を言っているのか知りません

卑猥な事を言い、叫び声をあげ、悪口を言います
誰かがそれを叱るといつもそうなります
それは不倶戴天の敵であるかのようにその人に向かって行きます

2365 それはその家来ヘロデを足元に置いています
怒りで子供達を殺した人物です
その左の脇腹に大きな噛み跡をつけていました
手引き小僧を殺したレメク[245)]が

2366 この邪悪な者は悪意で自滅しようとします
それは聖者ヨブがこれに課したものです
移り気な怒りは他の心は落とさないでしょう
これは満足するまでは決して争わないでしょう

2367 この悪魔には裏切り者の息子がいます
それは我らが主なる神が禁じている憎しみです
すべての罪のうちこれが最大です
これを抱いて死ぬ者は大きな過ちを犯すことになります

2368 これは人間に殺人を犯させます
母に息子を殺させ
聖なる教会を冒瀆させ
高位聖職者から節度を失わせる術を知っています[246)]

2369 これは他の者を傷つけたり手が届かないときには
自分の手で自らを殺そうとします

このように打ち勝ち難く、このように邪悪な敵から
世を救ったお方が我々を守ってくださいますように

2370　プルート[247]は自分の宮殿をこのように建てることを望みました
人がどこからも逃げられないように
また人を攻撃するために他の障害を置きました
どれからも助からないように

2371　強欲が打ち勝てない者がたくさんいます
嫉妬もまた彼らを堕落させることはできません
彼らは怒りを恐れません、自分をよく守ることを知っています
しかし最後には邪淫が彼らを打ち負かします

2372　それ故悪をすべて知っている悪魔は
4番目の地域に邪淫を住まわせました
それは汚れて、やせ細って、石灰よりも熱く
その力で市場全部を腐敗させます

2373　それは汚れた子孫を伴っていました
姦淫、不倫や他の堕落
倒錯した男色
このような邪悪なあるいはさらにひどい他の多くの卑劣な行為

2374　悪徳は多様なので
その住処でそれぞれの焚き火が燃えています
火の上でそれぞれの鍋が沸騰しています

そこでは姦通した魂が熱せられ煮られています

2375 それ故私は祝福された既婚者たちは除きます
もし妻と夫が貞節を保っていればです
そこでは背いた魂はすべて焼かれ、苦しめられます
真の告解によって許された魂を除いて

2376 聖パウロが不純と呼ぶもう一つの悪徳[248]は
煙からも十分の一税と初物[249]を取り立てます
さらに貪欲が取らない残り物からも
堂々と取り分の二倍を取ります

2377 そこには顔が歪んで、ひどく燻された
かつて誠実だと思われた多くの男たちがいます
他は偽証して裸です
これらは虫が食った舌を持っています

2378 大食と食い意地は五番目の場所を占めていて
これらは人間に多くの卑劣な行為をさせます
これらは邪淫と共に同胞団を作っていて
お互いなしには一日も生きられないでしょう

2379 大食は指を舐め回しながら真ん中にいます
もう一方で食い意地がげっぷをしています
さらにもう一方では酩酊が吐きながら酒を飲んでおり
その仲間たちが恥ずかしいことに裸で横たわっています

2380　すべてそれを支えているのは若い男たちと
説教が嫌いな尻軽女たちで
夜に火のそばでこっそり食べ
酒ビンのふたを味わいながら酒場で横になります

2381　人が満腹するまで食べるのを私は大食とは呼びません
自然の必要を満たすために適当な時に食べるのを
しかし食べ過ぎたり飲み過ぎたり
これらは自然の体調を崩すと医者が言っています

2382　もしアダムがあれほど食いしん坊でなかったなら[250)]
メシアはあれほど苦しみを受けることはなかったでしょう
もしロトがカトーが命じるだけの量を飲んでいたら、わけも分からず自分の娘と子供を作ることはなかったでしょう[251)]

2383　このような生活をすることに慣れている男たちは
利益を得るのが下手で、どこで得るのか知りません
それで盗みを働き、教会に押し入ることになります
彼らはそのようにして魂を失うことになるのです

2384　彼らはサイコロ賭博がとても好きで、信用を失うことになります
決して教会へ行って告解をしません
彼らは生まれなかったか
口のきけない家畜である方がずっとましでしょう、そのような生活を送るよりは

2385　世の中には非常に大食の他の人たちがいて
彼らは一人で食べるために穀物倉に入ります
貧しい人にも仲間にも分け与えず
余ったものをポケットにしっかり隠します

2386　これらの者は金持ちと共に地獄に沈んでいます[252)]
水を近くに持ちながら、渇きで途方にくれ
食べ物を見ながら非常に飢えていて
生まれて来たよりも死を望んでいるでしょう

2387　とてもひどい悪徳から我々は身を守るべきです
怠惰というのがその名で、多くを害するのが常です
これはよく非常な苦しみを持つ人に近づき
それが及ぼす悲しみのために、人は過ちを犯します

2388　我々はこういう事が何度も起こるのを見ています
人が親戚や財産をなくすと
それをこよなく愛していた者は、非常に苦しむので
絶望しそうになる時期に遭遇します

2389　根無しになり、不信に陥り、死のうとします
悪魔は用意ができていて、彼を迎えに来ます
地獄に連れて行き、よく仕えるように命じ
松ヤニと銅の中で彼を煮させます

2390　ある作家の作品[253)]で私たちがよく読んでいることを思い出しま

す
ニオベが苦しみのあまり石になったことを [254]
そしてフェリス [255] が良き主人のために木になったことを
私には彼女たちが我らの主なる神に対して過ちを犯したと思われます

2391　しかし私はそこで過ちを犯すことを恐れるので別のことを考えます
これは違うふうに解釈されるべきです
私には起こりうるとは思えない
人がそんな物に変わることができるとは

2392　作者は彼らが罰せられたと言おうとしたのではありません
地獄に一度連れて行かれる人々は
騙されて他の物に変えられると言ったのです
それで人は十分に彼らは罰せられると言えるのです

2393　私は誰かが私に言い返そうとするのを知っています
ロトの妻 [256] の例を私に示そうとしているのでしょう
それには一つの反対の言葉で十分です
それはあわれな悪党でもできることでしょうが

2394　すべての事にまして我々はこの世から我々自身を守るべきです
それは槍も剣もなしで殺すことができます
人は自分がより安全だ思う時
その時よくそれは網を投げます

2395　よく悪徳から身を守る人は大勢います
行いと言葉において罪を犯さないようにしています
人はそういう人たちを何事においても咎められないでしょう
しかし彼らの中に慢心がいるのが常です

2396　それを感じたり知ることができる人はわずかで
それと関係がない人もわずかです
それは有力者を装うことを知っています
なぜならそれは卑しい人の中に入ることは決してできないからです

2397　もしあなたたちが私の考えを少しでも知りたいと思うなら
私はそれをあなたたちにもっとよく言い表したいと思います
何人かはそれを幸運にも理解できています
そのことで私たちは少し自制すべきなのです

2398　年をとった悪魔は決して眠れず
私たちを騙すためにいつもうごめいています
どれだけの罠を仕掛けているかあなたたちは耳にすることができたでしょう
もしあなたたちがそのことに耳を傾けたいと思うなら

2399　彼はある人々を欲張りにし
他の人々を怒らせ、他の人々を妬み深くし
また他の人々を大食いにし、また他の人々を淫乱にします
そして彼らを酔わせ、毒で殺します

2400　善人や聖人は過ちを犯したくないので
祈り、施しをし、奉仕しようとします
彼らは自分たちの説教で他の人々を変えられるのを知っています
このことが悪魔に重くのしかかり悪魔は死のうとします

2401　しかし悪魔はこのような人々に対する舐め薬を作ることをよく知っています
これを彼らの左の奥歯にそっと塗ります
そして善人に自分の善行を思い出させると
善人はそのことを自慢して楽しみます

2402　悪魔は人々に彼を讃えさせ、誉めさせます
悪い風が彼を動かし、舞い上がらせます
悪魔は乾いた場所で彼を泳がせ
彼にいかにして、できるなら、罪を犯させるか考えます

2403　このようにしてゾシマス[257]は欺されました
彼が自分は善良さにおいて完璧だと思った時に
そしてもし神が彼を元の状態に戻そうとしなかったら
もしそうでなかったら彼のすべての苦労を無駄にしたことになったでしょう

2404　こういう悪魔は人を酔わせるのが常です
神の方を向く力を持たないように
この悪魔はバビロニアの王に過ちを犯させました
そのために彼は長い間動物と暮らすことになりました[258]

2405　これらが七つの大罪と言われるものです
そしてこれらが重いと言われる罪です
これらの七つが世にすべての悪をもたらし
多くの誠実な人に綱をつけて引いて行きます

2406　そしてこれらは皆傲慢に縛り付けられています
みなその命令を帯びている使用人です
傲慢が女王で、彼らは召使で
七つすべてにしっかり教え込んでいます

2407　このために傲慢は（七つの）数のうちに入っていません
なぜなら傲慢は悪徳の女帝と呼ばれているからです
彼女は彼らすべてに食べ物と給料を与えていて
彼女をこれらの者たちと同等に扱うのは不適当です

2408　彼女は他のすべての者たちの上に家を建て
世の中に自分とに並ぶ者はないと思っていて
市場の真ん中を大きな馬に乗って歩きます
皆を見下し、悪態をつきながら

2409　彼女は自慢して回っています、もし自分がいなければ
神は決して悪魔と争うことはなかったろうと言って
アダムもあんなにひどく罰せられることはなかったし
少女エステル[259]についてもあんなにうまく行かなかっただろう
と

2410　彼女は人や天使に喧嘩を売っていて
非常な怒りで額をあらわにしています
彼女は誰にその軽蔑を向けたらいいのかわかりません
彼女の馬は狙いをつけた者を誰でも轢きます

2411　私があなたたちに悪徳について多くを語りたくとも
あなたたちは皆推しはかり判断できます
私は、あなたたちが対応して話を聞くのを望むなら
外側のことはやめて、城塞について書きたい

2412　地獄の真ん中で窯が煙をたてています
昼も夜も燃えていて、決して炎をあげません
そこに平和の敵である王がいます
魂には嬉しくないゲームをしかけて

2413　そこで魂が自分が犯した悪のために燃えています
罪過にふさわしくある魂は大きく、またある魂は少なく
わずかな過ちを犯した魂は少ない苦痛を感じ
より悪い生き方をした魂は大きな苦難を被ります

2414　窯はいつも燃えているものです
しかしすべての魂が同様に苦痛を感じるわけではありません
非常に暑い太陽の下にいる人に起こるようなことが起こります
ある者はそれで苦しさを感じ、他の者は意に介しません

2415　炎の中で燃えながら魂は非常な寒さで震えています

そして雪の中に横たわりながら暑さで死にそうになります
地獄には中庸がまったくありません
というのは隅々に恨みがたっぷりあるからです

2416 その仲間にはティテュオス[260)]がいるという話です
彼をハゲタカが日に十二回食べます
十二回食べて、彼は十二回生き返ります
一回死んでも回復することになります

2417 彼はもっと簡単にそのような苦痛を耐えることができるでしょう
最後にはそこから出られると知っているとしたら
しかし死ぬことはできないし
決して苦痛から逃れられることもできないだろうことが苦しみです

2418 この世の火は胆汁のように苦いですが
地獄の火に較べるとはちみつより甘いでしょう
人は神のために命を捧げるべきでしょう
聖ミカエルが主にとりなしてくれるように

2419 火は昼も夜も自分の運命を呪っています
火に苦しみを与えている者はこれで満足しています
燃えている哀れな魂はその者に大いに感謝するでしょう
向きを変えさせてくれさえすれば

2420 洗礼を受けていない子供の魂は

原罪で損なわれていて
他の魂とは一緒に燃えていないで、離されたところにいます
しかし非常な闇の中にあり、光から遠ざけられています

2421　十分に重い罰で　―私はもっと重いのを知りません―
人は創造主の顔を見ることはできません
その顔を見る人には栄光と甘美であるように
他の者たちには苦痛と大きな苦しみなのです

2422　古くは義人たちはこの場所にいました
イエス・キリストが彼らを救いに来る前は
しかし彼は望みました、ハレルヤ、その時そこを封印することを
決してこれ以上彼を待つことがないように、虚しく待つことになるのですから

2423　私たちがいかにあなたたちに地獄について語りたいと思っても
そのひどさについて十分の一も書けないでしょう
しかし私たちは神に慈悲を乞うべきです
決して私たちに地獄を経験させたり感じさせたりしないように

2424　皆さん、私たちは長々と話をしてきました
私たちは自然を独りぼっちにしています
しかし私たちは自然に帰って、自然を満足させましょう
彼女の行く所まで共に行きましょう

2425　自然は命令を実行するために地獄に下りました

地獄は自然にたちまち恐れをなしました
自然は顔を隠して門のところで立ち止まりました
毒のある地獄が自然を妨げないように

2426 直ちに自然は魔王を呼ぶように命じました
魔王はすぐに来て、あえて遅れませんでした
しかしいつもの服を着替えました
自然が怖がるのを恐れて

2427 魔王はいつもの天使の顔になると
自分の美しい外見に狂喜しました
《御婦人―と魔王は言いました―これは一体どう言うことでしょう
私はこのようなところであなたに会うとは思ってもいませんでした》

2428 しかし自然はこれを聞こうとしませんでした
命令を実行して早く帰りたかったからです
不浄な場所に長居はしたくありませんでした
そこは悪臭に満ちていたからです

2429 《心配が私をここに来させました
心配は多くの人がしていて、私だけではありません
もしアレクサンダーの脅しが本当なら
我々の王国は何の価値もありません

2430　傲慢な男であるギリシャ人たちの王は
世界を大きな苦悩に陥れました
彼はインドの王とバビロニア王を打ち破り
メディアとユダヤを従えました

2431　王たちは戦場で敢えて彼を待ち受けません
獣や蛇も彼に耐えることができません
皆彼の剣を非常に恐れています
彼に対抗できる人間はいません

2432　王はこれでもまだ満足しないで
海の秘密をすべて詳しく調べました
あらゆる危険にも決して挫けませんでしたが
現在もまだ満足していません

2433　自分に対抗するものが見つからないので
地獄を探りたいと言っています
私のすべての秘密を明かそうとし
私もあなたたちもすべて鎖につないで連れ去ろうとします

2434　あなたは（人類の）最初の両親を騙すことができました
そのために彼らはあなたの鎖に縛られて死ぬことになったのです
もしアダムが意図したように打ち負かしていたら
私たちはあなたの不運について多くを語るでしょう

2435　おまえが罪を犯して天国から追放された時

おまえは入るところがなく、惨めだった
私がおまえにこの場所を与えた、それでおまえは恐れられている
おまえは私の恨みを晴らすことで満足すべきだ》

2436　悪魔は自然の望みを遅らせようとはしませんでした
自然は両手を打って帰ろうとしました
自分が通ったことのない場所で、伝えるように命じていました
家来たちが法を守るようにするようにと

2437　悪魔はそのことを忘れませんでした
姿を変えて、大きな唸り声をあげました
直ちに地獄の会議が招集され
一番遅く来た者は失敗したと思いました

2438　《私は、出席者たちよ、おまえたちに知らせを伝えたい
それにおまえたちは皆心すべきです
問題が大きくなり、人々はおまえたちに戦いを挑んで来る
おまえたちが心しなければ、おまえたちを滅ぼすかもしれない

2439　ギリシャ人たちの王は非常に傑出していて
人間も、蛇も、獣も皆打ち破った
今力を持って非常に気が触れていて
恐れも恥も皆失っている

2440　世界に彼は収まらないし、彼に十分ではない
彼は世界の反対側[261)]の人々を探しに来るという噂で

それから地獄を屈服させ
私とおまえたちすべてを鎖に繋ごうと考えている

2441　しかしある事に私は非常な恐れを感じる
聖書は歌っている、悪意のある歌を
一人の乙女が非常に聖なる息子を産むだろうと
そのために地獄がひどい苦しみを受けることになると

2442　この男かどうか、おまえたちに言うことはできない
しかし勇敢な敵が我々に現れることになり
我々から魂を抜き取り　―これは必ず起きる―
我々から戦場を奪うことになろう、我々はその者に損害を与えることはできないだろう

2443　どうあれ我々は準備すべきだ
どんなひどい道を彼に歩ませようかと
これを達成できる人には
私は思いもつかない褒美を与えよう》

2444　会議は刺々しくなり、喧嘩が始まりました
お互いに攻撃しようとする犬のように
しかしだれも彼に答えることはできませんでした
だれもそれを成し遂げたいと答えませんでした

2445　一人の小間使いが真ん中で立ち上がりました
彼女は子供の時から裏切りという名で呼ばれていました

意味深長な、そして不名誉な名です
この女が彼を天国の椅子から引きずり下ろしたのです

2446　彼女は家を非常に大胆に歩き回りました
彼女は陽気な顔と腐った意志を持っています
しかし左手は隠していて
毒薬をたっぷり持っています

2447　《会議に出席の皆さん―とその悪女が言いました―、私の言うことを聞いてほしい
私はあなたたちすべてを守りたい、よく知ってほしい
あなたたちはそのような心配はまったくしなくていい
私があなたたちが満足するようにしましょう

2448　私はこのことをすぐに成し遂げ、用意できると思う
というのは私はそのような毒薬を調合できると思うから
それはアレクサンダーの顔に触れるだけで
彼は自分自身にも他の者にも助言できなくなるでしょう

2449　私は私のすべての事柄を立派に仕上げてある
私の信頼できる友である司令官アンティパテル[262]に
お金をたっぷり持たせてある
彼は喜んでそれをするだろう、すでにそうするつもりだから

2450　すでにアンティパテルは彼の封印された書状を持っていた
アレクサンダー王が彼に送ったものだ

彼は年をとっているので分別があると思っていたからだ
彼をそばに置いておきたいと思ったが、それでひどい過ちを犯すことになった

2451　アンティパテルはすでに家を出て、途に就いている
然るべき時にバビロニアに着くだろう
すぐに王は暑くなって燃えてやって来るだろう
五日目には彼のパンはすべて挽かれているだろう》

2452　ベルゼブッブは満足して彼の小間使いが気に入りました
彼女は会議全体にひどく賞賛されました
ベルゼブッブは彼女に朝早く彼に大麦を与えるように所望しました
早朝に摘みに行ったものを

2453　悪女は動きました、グズグズしようとしませんでした
途に就いて、急ごうとしました
司令官の住居に入ることになりました
悪い世を作りかねない裏切り者の家に

2454　まだ時間は雄鶏が鳴かないころでした
裏切り者は眠りたくなかったので起きていました
悪女は彼を焚きつけることができたので
ついに彼をその気にさせました

2455　悪女は彼に汚い計略をすべて示しました

どんな薬を王に飲ませるか、どんな時間に、どの日に
二人は約束事を確かなものにするために握手をしました
アンティパテルは悪者になり、彼女は立ち去りました

2456 ああ、アンティパテル司令官よ、お前は現れないほうが良かった
お前は悪い契約を結んだ、判断を誤った
お前の悪事は最後の日まで語られるだろう
お前は生まれないほうが良かった

2457 お前はこの世から大きな明るさを取り除こうと望んでいる
お前はギリシャを大きな闇に戻そうとしている
裏切り者よ、なぜそのような恐ろしい悪事を愛するのか
ベッススと通じないように用心するがよい

2458 完璧な人物であるアレクサンダー王は
そうこうする内すべて海を探し
終わりを見つけられず、すでに戻っていました
悪魔の力がすでに彼を巻き込もうとしていました

2459 王は彼の良き臣下と共に事業を整え
全世界を計測しました、どのように三つの部分がなっているのか
色々な地域の各々
色々な習慣、色々な言葉の各々がどうなっているのか

2460 最初考えましたが、無駄でした
あの有名な町バビロニアに帰って

自分が獲得した全アジアに号令しようと
もしそこから去ればバビロニアは安全だろうと

2461　それからすぐにアフリカに渡り、そこの人々を征服し
それからモロッコをその下方にある土地と共に
そして快適な場所であるアトラス山脈を手にいれる
そこはあまり寒くも、暑くもありません

2462　アフリカを手中にしてから
海を全部渡り、ヨーロッパに入り
名のある地スペインからはじめる
そこは強力な人々がいて、城にしっかり護られている所です

2463　潑剌とした人々のいるフランス
イギリス人、ドイツ人とトスカーナと共にロンバルディア人を征服して
ローマの町で自分を君主と呼ばせ
健全な意思でギリシャに帰る

2464　詩篇の作者はこの事に関して大きな真実を語りました[263)]
人間の考える事はすべて虚しいと
人間は心の中で大きな飛躍を考える
よく見ると、半分にも達しない

2465　人が考えていることすべてを達成できるとしても
アレクサンダーは私よりも征服はできないでしょう

しかし天に昇るというのは大きな跳躍なので
言う事とする事の間には大きな開きがあります

2466　良き王はすでに事を決めていて
心の中でそれを計算していました
王は煙を上げ、野営地をたたみ
呪われた時にバビロニアに行くように命じました

2467　王は十年アジアにいました
しかし、神に感謝、王はその事業を終えていました
その間素晴らしい町々を建てました
彼の遺体が移されることになった良きアレクサンドリアのような

2468　もし運命が彼により長い命を与えようとしたなら
滅ぼされたトロヤを彼はひょっとして建て直したでしょう
しかし神は人を限度内に保つことを知っています
誰にも完璧な繁栄を与えないというような

2469　私たちがバビロニアを目で見る前に
そして私たちが裏切り者の仲間に入る前に
彼が見たものについて、それは私たちが書に書いてあるのを見つけたのですが
全部ではないにしても、いくつかについてお話ししましょう

2470　私たちはすべてを語ることはできないでしょう
彼と彼の臣下が見たものすべてを

それらは長い話なので、長くかかるでしょう
十五匹分のヤギの羊皮紙にも入りきれないでしょう

2471　私たちはすべての獣に言及することはできないでしょう
それらと人々は何回も戦わなければなりませんでした
私たちは大した成果もなく多くの日々を費やすことになるかもしれません
それで私はあなたたちにこの話を喜んで省略しようと思います

2472　他の多くの生き物の中で
王は野人を、男も女も見つけました
ある者は歳老いた、またある者は若い野人を
彼らは獣たちと共にツルボラン[264)]を食んでいました

2473　誰も衣をまったく着けていませんでした
皆全身毛深く
夜は獣のように硬い地面に横たわっていました
彼らを見たことのない者はひどく恐れるでしょう

2474　馬で彼らに追いつかなければなりませんでした
彼らは非常に軽快だったので、捕らえることはできませんでした
彼らに質問しても、話ができませんでした
ギリシャ人たちの言っていることがわからず、黙っていなければならなかったのです

2475　王はフェニックスという小鳥を見つけました

この世に一羽しかいず、決して二羽はいないでしょう
寿命の途中で自らを焼き
その灰の中から再び生まれるのです

2476　それは年をとったと感じると、自分の炉を用意して
閉じこもり、火の中で自分を焼きます
すると梨の種のような虫が残ります
それが新たに育つのです、これは本当の事です

2477　良き王は途について進んで行きました
意気軒昂で、パンとぶどう酒はわずかしか持たずに
一行はおびただしい数の山鹿を見つけました
このような主君と共にいた者は決して乏しいことはないでしょう

2478　一行は平らな島に宮殿を見つけました
それは内も外も素晴らしい作りでした
フェブスと妹が住んでいた所です
彼女を作家たちはディアナ[265]とよく呼んでいます

2479　彼らは宮殿を守っている一人の善人を見つけました
彼はギリシャ人たちを快く迎え、いた所から立ち上がりました
王の手を取り、旅はどのようですか
どこから来たのですか、何を捜しているのですかと尋ねました

2480　その善人は香だけを食べていました
彼は囲い場の真ん中にある立派な寺院を守っていました

それはすべて純金でできていました
同じようなぶどう畑がそれを取り囲んでいました

2481 《王様―とその修道僧は言いました―、もし私の話を聞きたいのなら
あなたにある事をお話ししましょう
あなたの運命があなたをここへ導こうとしたのですから
あなたは自分の運を確信して行くことができます

2482 私はあなたにこの山の二本の木を示すことができます
あなたは心の中でそのような事を考えることはできません
どんな終わり方をするのか
もし良かったらあなたはそれを確かめに行く事ができます

2483 一つの木は太陽です、そしてそのように能力を附与されています
もう一本が月で、そのように魅力的です
それは人が考えている事をすべて彼に伝えます
そこで二本の木が違った言葉を持っているのが分かるでしょう

2484 しかしもしあなた方がこの巡礼に行きたいのなら
三日間あなた方は清い体でいる[266]必要があります
この道に裸足で入るのがいいでしょう
なぜならそれは非常に神聖で、非常に力があるからです》

2485 王は修道僧に言いました：《お坊さま、お知りおきください

我々はあなたが心配していることからまったくきれいでいます
しかしあなたがその神聖な場所へ我々を導いてくださるなら
我々はあなたにお望みだけの捧げ物をしましょう》

2486　王は巡礼者のような粗末な衣装を身につけました
修道僧が導いて、一行を小道に連れて行きました
しかし王は一人で歩かないように連れて行きました
ペルディカスとアンティゴヌス、そして三番目にトロメウス[267]
を

2487　彼らは山に入り、歩いて行こうと思いました
その二本の木の所にたどり着くまで
しかし彼らはその前にぶどうの木を見つけました
それらから乳香と芳香油が取れるぶどうの木を

2488　彼らが至聖なる所に着くと
修道僧が彼らにその建物について話しました
僧は彼らに心の中で考えるように言いました
確かな真実を知るために彼らが望む諸事について

2489　アレクサンダーは心の中で考え始めました
この世で何か自分から逃れられるものはあるのか
勝利で故郷に帰れるのか
事がどのように定められていたのか、これからどうなるのかと

2490　木の中の一本が彼に非常に冷酷な言葉で答えました

《王よ、私はあなたの意図がよく分かる
あなたは間もなく世界の主になるだろう
しかし決して故郷に帰ることはないだろう》

2491　月の木が話し、太陽の木は黙っていました：
《裏切り者たちがあなたを殺し、あなたは毒を盛られて死ぬだろう
王よ―と木は言いました―、毅然としていなさい、あなたは決して敗れないだろう
毒草を持っている者はあなたのとてもお気に入りです》

2492　王は木に言いました：《もし私を満足させたいなら
私を殺すはずの人間の名前を私に明かしてくれ
もしダメなら、私にその場所さえ言ってくれれば
どうにかして私は自分を守れるだろう》

2493　《王よ―と木は言いました―、もしあなたが知ったら
あなたは直ちにその裏切り者の首をはねさせるだろう
そうすれば運命の星は何の価値もなくなるだろう
そして創造主は私に深い恨みを抱くことになろう》

2494　《王様―修道僧は言いました―、あなたは十分に聞きました
これ以上固執すると、気が触れていると思われるでしょう》
修道僧の忠告はすぐ聞き入れられ
一行は出て来た住居に帰りました

2495　たどり始めた道を行くと
　　頭を落とされた人々を見つけました
　　彼らは胸の前に作られた顔を持っていて
　　驚きでひどく怖がらせるでしょう

2496　限りない力を持つ良き王アレクサンダーは
　　道々ある事を考えました
　　どのようにして踏み台とハシゴを用意しようかと
　　全世界を見るために、それがどのように横たわっているのか、
　　どんな物なのか

注

241）ここでも時代が錯綜している
242）七つの大罪とは貪欲、嫉妬、怒り、邪淫、大食、怠惰、虚栄、ここも後世の話である
243）旧約聖書サムエル記上
244）「ひどい熱によって」ということであろう
245）旧約聖書創世記 4：18
246）この連も後世のキリスト教の話
247）ギリシャ神話冥界の王
248）新約聖書のパウロの書簡に何度も出て来る語で、これも時代が錯綜している
249）中世の農民が教会に収めた収入の十分の一と果物などの初物のことで、これもやはり時代が錯綜している
250）アダムが楽園で知恵の実を食べたこと
251）旧約聖書創世記 19、30-38
　またここで言うカトー（Cato）とは紀元 3、4 世紀の作家 Dionysius Cato のことで、その著作 Disticha Catonis の中で大酒を戒めている
252）新約聖書ルカ伝 16：19-31
253）オウィディウス（0vidius）の著作
254）ギリシャ神話で子供を自慢したために、その子が皆殺しにあい、悲しみのあまり石になったとされる女

255） ギリシャ神話で夫がいなくなって悲しみ、アーモンドの木になった
256） 旧約聖書創世記 19：15-26 ソドムから逃げる際に神の言い付けに背いて後ろを振り返ったため塩の柱に変えられた
257） 五世紀のパレスチナの聖人で裸女に誘惑されるが、神の恵みで罪を犯さずに済んだと言われる
258） バビロニアの王ネブカドネザルに起こったこと
旧約聖書ダニエル書 4
259） 旧約聖書エステル記　彼女の願いで、夫の王はユダヤ人社会を保護した
260） ギリシャ神話に出てくる巨人で、ジュピターに罰せられ冥府で肝臓をハゲタカに食われることになるが、再生するので永遠にこの罰を受けることに
261） 地球が平面であると考えられていた時代、反対側とは地底、つまり地獄である
262） アレクサンダーを毒殺しようとした武将、第 1503 連参照
263） 旧約聖書詩篇と伝道の書
264） 植物の一種
265） ディアナはアポロの別名フェブスの妹
266） 旧約聖書出エジプト記 19：11-15
267） アレクサンダーの武将たちと思われる

参考図書・辞書

Libro de Alexandre　Real Academia Española　Madrid　2014
Libro de Alexandre　Nueva Biblioteca de Erudición y Crítica Editorial Castalia　Madrid　2007
Libro de Alejandro　Editorial Castalia　Madrid　1985
Book of Alexander　Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books　Oxford　2009
Vocabulario de Libro de Alexandre　Anejos del Boletín de la Real Academia Española　Madrid　1976
アレクサンドロスの書・アポロニオの書　橋本一郎　大学書林　1991
Diccionario Medieval Español　Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca　1986
Diccionario de Castellano Antiguo　Manuel Gutiérrez Tuñón　Editorial Alfosípolis　2002
Tentative Dictionary of Medieval Spanish　Lloyd A.Kasten and Florian　The Hispanic Seminary of Medieval Studies　New York　2001
Larousse Universal diccionario enciclopédico　Librairie Larousse　París　1968